



創校 50 周年記念式典・学習発表会

校長 川原 令子

サザンカの花が淡いピンク色の花を咲かせ、木々が赤や黄色に色づき始めました。秋の深まりを感じる今日この頃です。

10月16日(日)の朝、西の空に大きな虹がかかっていました。まるで、戸出西部小学校の創校50周年を祝ってくれているかのようでした。50年に1度しかない記念すべき年に巡り合えたことを喜びとし、子どもたちにも、保護者や地域の皆様にも心に残る年にしようと、平成21年度から準備委員会を立ち上げていただきました。翌年から実行委員会を結成し、何度も会合を重ね、準備を進め、戸出西部小学校創校50周年記念式典の日を迎えることができました。その過程で、50年という時の流れの中で先輩方が地域と一体となって築いてこられた伝統の重さ、戸出西部小学校を見守ってくださっている地域の皆様の温かさをひしひしと感じました。お忙しい中何度も学校に足を運び相談に乗って智恵を与えてくださった方、休日返上で大時計設置のための基礎工事をしてくださった方、式典に飾ってくださいと菊の鉢植えをもって来てくださった方、演壇に飾る松の盆栽を探して準備してくださった方、会場を飾った5年生の菊づくりの指導をしてくださった方など、数え上げたらきりが無いほどたくさんの方々を支えていただきました。本当にありがとうございました。また、戸出西部小学校50年の歩みをまとめた記念誌「三つの輪」がようやく完成しました。近日中に皆様のお手元に届くと思います。どうぞご覧ください。

練習の成果を発表したステージ発表や、藤田真郎先生の心に残る記念講演「夢に日付けを入れる!」の子どもたちの感想をご紹介します。

子どもたちの感想から・・・

- ・ 藤田先生の講演で一番心に残ったのは、障害があっても柔道がんばった人のお話です。障害があっても柔道をするなんてすごいことだと思いました。私が還暦を迎える時、戸出西部小学校は、創校100周年を迎えます。その時は、今の倍ほどお祝いしてあげたいです。50年に一度しかない貴重な式でした。
- ・ 私の心に残っているのは、式典の合唱・合奏です。夏休み前から、この日のために学校でみんなと練習したり、家で歌ったり、鍵盤ハーモニカを使って練習したりしてきました。とても緊張したけれど、祝芸が成功し、たくさんの拍手をもらった時、心の中がうれしさでいっぱいになりました。自分に自信をもち、やり遂げることは大切なことなんだと改めて思いました。
- ・ 藤田先生が、記ねんこうえんで、「がんばると、かいだんを1だんのぼれるんだよ」と教えてくださいました。わたしもなでしこジャパンのようになりたいです。
- ・ はじめてのがくしゅうはっぴょうかいがありました。みんなのまえではじめて、げきをしました。ちょっとはずかしかったけど、せいっぱいの大きなこえでがんばりました。おばあちゃんが「大きなこえだったよ」とほめてくれたのでうれしかったです。
- ・ ぼくは、講演を聞き、夢についてもっと考えようと思いました。わけは、夢は信じて努力すれば、しっかり叶うと思ったからです。さらに、夢に日付けを入れれば、それが目標になり、その目標に向かって、もっと努力することもできるからです。



10月26日（水）から28日（金）の3日間、戸出中学校区の「地域ぐるみ戸出っ子あいさつWEEK」の取り組みが実施されました。本校児童玄関前と精肉店前の押しボタン信号機の2か所に、戸出中学生や本校児童がいっしょに立ち、「おはようございます」の声かけを元気に行いました。これからも、地域ぐるみであいさつの輪を広げていきたいと思ひます。

いのちの音を聞こう

11月4日（金）絵本作家のいとうえみこさんを迎え、「いのちの音を聞いてみよう」と題して、4年生対象にいのちの授業をしていただきました。「いのちって、なんだと思う？」「生きているってどういうこと？」という質問に、4年生は「心臓が動いていること」「今ここにいること」「友達や家族といること」など感性の光る言葉で答えていました。実際に機械を使って心臓の音を聞かせてもらったり、ゲストの妊婦さんのお腹を触らせてもらったり、胎児の心臓の音を聞かせてもらったりすることを通して、いのちの不思議や大切さ、自分が大切に家族から見守られてきた存在であることに気付くことができました。



4年生の感想文から・・・

- ・今日の読み聞かせは、3年生の時に引き続きいのちのお話をしてくださいました。大人も子どもも赤ちゃんも一人一つずつ大切ないのちがあることを改めて知りました。
- ・お腹の中にいる赤ちゃんは、トクトクと一生懸命心臓の音を出していました。1分間に120回～140回も動かしてがんばって生きているんだと思いました。
- ・いのちは一つしかないもの、今生きていることがどんなに大切なのか、よく考えてみたいと思いました。
- ・妊婦さんのお腹に触らせてもらいました。とてもパンパンで、あたたかくて、「この中に赤ちゃんがいるんだ」と思いました。

ちょっとうれしい話

（その1）

学習発表会を見に来てくださった戸出老人クラブのふれあい学級生の方から、「ふれあい学級の児童感想文や写真が廊下に展示してあり、とてもうれしかった」と、3年生児童へ手紙を書き、わざわざ学校まで届けてくださいました。3年生の児童は、とても喜んでいました。こんな形での交流こそが、本当のふれあいになるのだと思いました。

（その2）

先日、全国連合小学校山形大会に参加させていただきました。その時、偶然にも、前回の学校便りで紹介させていただいた岩手県久慈市立久慈小学校の校長先生とお会いすることができました。子どもたちがとても喜んでたというお話を直に聞かせていただき、これからも息の永い交流をしていきたいと思ひました。